



…地震に強い住宅にするために…



台風18号は全国に大きな爪痕を残していきましたが、皆様の被害はいかがだったでしょうか。ノストラダムスの予言も何もなく過ぎたようですが、最近の地球はやはり何か変ですね。トルコ・ギリシア・台湾そしてペルーでは大きな地震があり、多くの被害が発生しました。日本でも平成7年の阪神大震災では住宅の半全壊で木造住宅、特に軸組工法によるものの被害が多く、「木造住宅は地震に弱い」と騒がれましたが、その倒壊した木造住宅の被害状況を調べてみると、古い住宅ほど被害が多かったです。これは老朽化の影響もありますが、それよりも耐力壁の量の少なさが原因と思われます。(建築基準法に基づき適切に建てられた住宅は大きな被害を受けていませんでした)

地震はいつ来るか分かりません。建物を建てて1年後かもしれないし、20年後かも。そこで地震に強い住宅を造るためにはどんなことに注意すればいいのかまとめてみました。

- 1、地盤…地盤が悪いところに木造住宅を建てれば、足元が不安定なので地震の被害が大きくなるのは当たり前です。埋め立てたり、盛土した敷地に住宅を建てる場合は基礎を丈夫にし、宅地造成後土が締まるまで1~2年待ってから建築するのが良いでしょう。
- 2、基礎と土台…建物の外周壁と内部の主な間仕切の下には、一体のコンクリート造の布基礎を設け、アンカーボルトで土台を布基礎に緊結します。布基礎には鉄筋を入れた方が良いでしょう。
- 3、柱の太さ…柱は、屋根や2階の床を支える大事な部材なので、十分な太さのものを使い、断面を欠き込んだらその部分は補強をしなければなりません。2階の柱や壁は、なるべく1階の柱や壁の上のせるよう配置してください。
- 4、耐力壁の量と配置…筋かいの入った耐力壁の量と配置は、建物を地震から守るうえで最も大切です。耐力壁の総量は法令で最低値が決められていて、2階より1階の方が多く必要です。また、耐力壁は片寄らないように釣り合いよく配置してください。建物の南側は、採光のために大きく解放されがちで、耐力壁が不足するので注意が必要です。
- 5、床、屋根…床と屋根の4隅には、火打ちを入れて全体が歪まないようにしましょう。また、床や屋根に合板を張りつめるのも剛性を高める効果があります。
- 6、建物の形と重さ…建物の平面・立面の形状は、単純でまとまりの良いほど安全です。建物の重心が片寄らないようにし、耐力壁の量や柱の太さを大きくしましょう。
- 7、腐朽、防蟻対策…土台部や湿度の多いところは、JAS防腐・防蟻処理材(CuAz注入など)を使いましょう。また、床下換気口の大きさは配置を工夫し、床下に湿気が溜まらないようにしましょう。さらに金物や配管の周辺で結露がおきないように工夫することも大切です。

[商品情報] 台風18号は阿久根・出水から熊本にかけて大きな被害を出しています。すでに小割物を中心に品不足が発生しています。今後更に品不足と価格高騰も懸念されます。早めの手配方お願いします。

《定休日》10月は、2、3、10、11、17、23、24、30、31日になります。

11月は、3、7、13、14、20、21、23、28日になります。

ご協力宜しくお願いします。



(お問い合わせは、お客様サービス係の森園まで)